

心が晴れる

2022. 12. 23

本日は、12月23日（木）である。気がつけば、第2学期終業式を迎えていた。いつものことだが、月日というものは、足早に過ぎていく。2学期がスタートした8月22日（月）が、つい先日のようである。この前までは半袖だったのに長袖を通り越して、いつの間にかコートを着ている。

今年の秋は、ずっと天気がよかった。1か月くらい雨が降らなかった気がする。快晴の日が何度もあった。さわやかな秋晴れだった。風も穏やかだった。週末は、いつも運動日和、紅葉日和だった。運動部の県大会を見に行った。天候に恵まれた。また、あづま運動公園の銀杏や文知摺観音の紅葉が印象的だった。

終業式を迎えると、まずは、子どもたちと教職員の命を守ることができたことに安堵する。だからといって、心は晴れない。心が晴れるとは、心配や疑念が消えて明るい気持ちになることである。疑念はないが、心配が消えることがない。したがって、心は晴れない。

学校に勤務していると、ずっとこの状態が続く。学校は、心配事ばかりである。特に、ここ数年は、新型コロナウイルス感染症対策が加えられている。気が休まることがない。いつも学校のことを考えている。気にかけている。そういった仕事を選んだのだということである。

これから冬季休業に入る。仕事が休みになることはないが、夏季休業との違いは、年末年始が入るという点である。この期間は学校を閉じる。1週間、7日間である。学校のことは、頭から離れはしないが、少しは心が休まる時間である。

こういった期間があると、区切りをつけることができる。何といても、年が改まるのが大きい。学校は4月から3月までの年度で1年間だが、世の中では、1月から新しい年である。カレンダーも新しくなる。リセットボタンが押される。これは重要なことである。前のことをいつまでも引きずることなく、前に進むためには必要なことである。

心が晴れないとか、気の休まるときがないというのは、表現を変えれば、危機意識が高いということである。今の世の中は、危機管理能力が問われる社会である。危機管理に営業時間はない。定休日もない。24時間、365日、コンビニエンスストアと同じである。

1月1日から事件も事故も起きる。お正月だから、何も起こらないということはない。実際に、1月1日から出勤したことがある。翌日の1月2日も事後処理のために動いた。それが現実である。春休みにも動いたことがあった。

心が晴れるというのは、どういう状態なのだろうか。30有余年もの間、経験したことがないのでわからない。きっと、教員をやめ、学校を離れたときに、ようやくわかることなのだろう。ちょっとは楽しみだが、こわいような気もする。やめても心が晴れなかったらどうしよう。そんな不安もある。そうなったときは、きっとものすごい後悔の念に襲われるのだろう。明日から、少しだけ心を休めようと思う。リフレッシュかつ充電期間である。